Kadokawa Comics A

# 10

# 小玉有起

ブラッドラッド

ドン

# ブラッドラッド

小玉有起（コダマユウキ）

第46話♠ブラッド・コミュニケーション

# CONTENTS

第46話♠ブラッド・コミュニケーション…001
第47話♠漫画の世界でやっていくわけ…039
第48話♠漫画の世界も楽じゃないわけ…073
第49話♠給血☆ドッキドキエモーション…107
第50話♠出発！刺客！北魔界！…141

お

……
どうなってんだ…

やっと目ぇ覚ました？
スタズさん…
ここは…

TV NEWS
続いてのニュースです…

おい…吉田
慌てすぎてまた変身が解けてるぞ
あ
す…すいません
いやもーいいんじゃねーのそのままで
で何だよ
ギャー
ギャー
いや…山田とかに聞いたんスけど…なんか殿堂で偉い人がやらかしたとかで…

今テレビのニュースでその事スゲーやってて…
何言ってんのかまったく伝わってこねえな…
ピ
と…とりあえずテレビつけてみて下さい…！

魔界の魔素量が急激に上昇した問題を受け 殿堂関係者は

「王の管理している扉に何らかのトラブルがあった模様」としており

原因の究明を急ぐ他…この事に関し

一刻も早い王からの発表を希望する声が多く上がっています…

まずいぜダディ…

王が宮殿に居ないのがバレるのも時間の問題だ

ここはブラッズの城…

ひとまず皆ここに避難出来たんだよ

あんたと…あんたの兄貴のおかげでね

……

兄貴…！

呆れたぜ…

何も覚えてねぇのかよ

テメェのその上着の血に聞いてみろよ

血…？

この血は…

俺はこんなナメられたまま帰れるほど…

ザッ

大人じゃねーんだよ!!

！

兄貴…!?

ここは私が食い止める!!

今のうちに…スタズを…

ドドド

思い出したか？

何でテメエが助かったのかをよ…

……

頼んだ…

オオオオ

あれから
もう2時間……

罪がブッ壊されたのは
たいした問題じゃねぇ…
あんなもんは元々この
魔界に無かった…

魔素の増加なんてもんは
一時的なもので
すぐに収まる……が

そこから
あぶり出されよう
としている真実…

これを公表
したら魔界は
どうなる…

…その前に

この状況で王が表に
出る事自体自殺行為よ

ズズズズ

アキムとかいうボウヤは今
まさに〝それ〟を待っているのの
かもしれない……

公の場で
王を殺し…

自らが王となる
舞台が整う
のを…ね

ケッ

ガッ

さっきから
聞いてりゃ
テメェ等……

何カッコつけて
カッコ悪い話し合い
してやがんだよ…

スタズの兄貴は
こんなクソみてぇな
会議開いて欲しく〜て

体張った訳じゃ
ねぇだろうがクソジジイ

ボタ ボタ…

オオオ

兄様は死んでない…

…リズ…

助けられただと…？

うぬぼれるな…

ギュ…

兄様が考え無しにお前を助ける訳ないだろ…

これは何かの作戦なんだ…

お前は馬鹿だからそれがわかってないだけだ…！

誰のせいで
こうなったと
思ってやがる…

あっ…
リズちゃ…

ｱｯ

スタズさん…

……



グッ

……俺の
せいだ…

は――い

魔界の皆さーん
こーんにーちはー☆

突然殿堂のネット局から中継が…

中継が繋がった…んですか？

おっと　これはどういう事でしょう

！

あ　映った？

イエ～～～イ

あの・すいません状況がよく飲み込めないんですが・

そちらの方は…いったい・

わ…私もよくわからないんですが…

アキムちゃんで――っす♡

何でも原についての真相を知っているとの事で…

キャッ

キャッ

キ

沈黙を続けてきた宮殿から出て来た方…なんですが

大丈夫なんですかね…？

おいおい映しちゃいけない奴出てきたぞ

あ！

こいつ…俺知ってる!!

スタズと戦った奴だ!!

で…あ〜〜〜何だっけ？扉か

あれはね——僕が壊したんだよ

は？

だからぁ

ズズズ

僕がやったって言ってるんだよ…

ドドド

ゴゴゴゴゴ

オオ

な…何という事でしょう…！

オオ

きゅ…宮殿が…！

突如現れた怪物によって…破壊されています…！

どうだ…わかったかい？

ここにはもう君達の知る王なんて居ないんだよ

これからはそう…

僕…

この魔界を支配する…

アキムが新しい王となり

文句があったらいつでもかかっておいで…

僕は殿堂に居る…君達の頂点にね…

そんじゃ…そういう訳で

よろしくバイバーイ

ブッ…

ガー

……

ガタ

……

…ダディ…

フッ

ガハハハ!!

こいつはスゲェ！

やられたぜ！

ケッサクだ

ちょっと待てよジジイ何うかれてんだよ

事態が好転したからよ

あ？

私達が恐れていた事…それは

アキムが〝王〟になってしまう事



……え？

だって今…

聞いてた？ネインちゃん。

今産まれたのは王じゃないわ

完全なる悪役(ヒール)よ

その通りだ……

魔界の秩序は王という絶対正義で成り立っている

だからこそ皆が法に従い…生きている

しかし…もしその正義が揺らいだら…？

魔界を守っているはずの王が扉の向こうに魔界を滅ぼす悪魔を飼っていた……

これを公表するにせよ隠すにせよ…魔界の民が王に抱くのは不信感だろう

自業自得なのは
わかっている…

だがこの失われた信頼
という名の〝正義〟を修復
するには時間がかかる…

そう…アキムは
待ってやくれない

必ず王を
殺しに来るわ

その光景は
皆が抱いた
王への不信感…

それを体現し…
ぶつけてくれた
ように 魔界民の
目には映る事
でしょうね

秩序の崩壊…

アキムを
正義の王
とする

混沌の世界が
訪れるところだった…

でも…

ダンッ

何だよ今の奴ぁ
好き勝手
ほざきやがって

ガルルル

おうデク
やってやれよ！

あいつスタズなんかに
負けた奴だぜ
たいした事無えよ！

ここで斬たな
ーュースが入って
きました

先ほど放送しました
中継で「あいつ何様だ」
「ブッ殺す」などの
電話 FAXが
止まらないとの事です

どうか落ちついて
下さい
私の気持ちも
皆さんと同じです

今…皆の中にある
正義は

真っ直ぐに

一つの方向に
向いている…

ドドド

君の言う通り…
簡単だったよ

……フフ…
そうだろう

私を生かしておけば
今後も何かと
アキム王の役に
立てる

アッハッハッ
君ってプライドとか
無いのかい？

ああ無いね
……もう

フーン

まぁいいや…

ズボッ

じゃあ生かして
おいてやるよ

ちょっと
君に作って
もらいたい物も
あるんだ



あ…ちなみに
逃げようとしても
無駄だよ

君の身体には
もう僕の魔力を
忍ばせておいたから

変な真似
したらすぐ
心臓潰しちゃう
よ♡

ああ大丈夫だ

生かしておいてくれ
さえすれば…他に
何もいらない

LIZ

リズ!!

!!

何だスタズ！
いきなり
入ってくるな！

お前の言う通り
だ…リズ！

俺が
馬鹿だった！

？

兄貴は
生きてる



ドガン

当たり前
だろ!!
私はわかってたぞ!!
馬鹿スタズ!!

お…おい痛えよ!!
わかった…わかったからやめろ

ドン
ん？
そいつはもしやさっきテレビに出てた奴ではないか？
カタ カタ カタ
パップラドン・アキム…か
ああ…そうだよリーダー
こいつを使わない手はないと思ってね…
ズズ

♠つづく♠

吸
ブラッド・C・スタズ
マナ
36400
organ

それじゃあ俺はしばらくヘッズのところに世話になるが…
後の事は頼んだぜボーイ
第47話♠漫画の世界でやっていくわけ

ドドドドド
もうこの魔界は止められないわ…

頼んだぜって！
一人だけ逃げる気かよジジイ…
しょうがないでしょ

今 王が表に出ても余計混乱を招くだけよ
仮に…出て行ったとして…

こちら破壊された殿堂宮殿前の様子です
新たな王を名乗った謎の男に制裁を加えんとする動きが活発化！
早くも一触即発のムードが漂っています！
さぁて…
スー
スー
新しいSHOWの始まりだ
そう…これは誰かが奴を止めるまで終わらない
いわばデスレース……

第47話
漫画の世界でやっていくわけ
ドドドド
アハハ
もうこんなに集まってるよ
降りてこいやー!!
ビビってんじゃねーぞ!
俺と勝負しろテメエ
ご覧下さい!

程なくして
魔界は知るだろう

ただの道化ではない
奴の恐ろしさを

本来ならば
王が葬るべき
絶対悪…

皆がそう思う
だろうが

俺はご覧の
有り様だ

魔界のトップが
手も足も出なかった
相手…

その事実が
明るみになった瞬間

アキムという
名は…

〝絶望〟と
同意語になる

わかった？
王という希望の火は
最後まで
絶やせないの…

……

だからって
何もしねぇでただ
待つっつうのかよ…

誰かがあいつを
倒してくれるのを
乙女チックに
お祈りしながら
生きてくのか!?　あ!?

それが王の仕事
だってのかよ!?

……悪いが

その通りだ

だとしたら
テメェはもう
王なんかじゃねぇ

……

だとよ…

……だとよって…

あんた
もしかして
それで

「よっしゃあ
俺にまかせとけ！」
とか
なったわけ？

なってねえよ

あのジジイ
そんだけ言って
サッサと消えちまい
やがったんだよ

……

……何か

カッコつけた
言い方してました
けど

要は私等に
丸投げしたって
事っスよね？

ば…バカ！
王に向かって
何て事を
きうんだ

え？
だってあの
オッサンもう
王を辞退したん
スよね？

…

待う!!
次の王が現れる
まで…その…
保留だ！
保留状態だ！

で？ どうすんだよ
お前は



ウルフ

決まってんだろ

奴を止めるのは
俺だ

ジジイに言われたから
とかじゃねぇ…

あいつとの決着が
まだついてねぇんだ

白黒つける…

そんだけだ

何よ…

結局やる気
なんじゃん…

そうだろうな

お前は
そういう奴だ

俺も行くぜ

！

クソ兄貴に助けられちまった……

このままじゃ寝覚めが悪いったらないぜ…

ちょっ ちょっと待ちなさいよあんた達！

どうやったって行くしかねぇ…

もしかしてそれで…

私にアキムの所まで運べとか言う気じゃないでしょーね!?

それに冬実を生き返せるのも兄貴だけだしな…



馬鹿じゃないの!?

あんた達なんかで勝てるはずないでしょーが!!

あっ…

そんなのわかんな…

わかるっつーの!!

つうか何であの状況見てイケると思うのよ!?

ああ頼…

いやじゃ——!!

確かに…容易ではないだろうな

つーか私達じゃ無理っスよ部長…

何ちょっと「俺だったら」的な空気出してんスか

そうよ…今のアキムは空間移動ができるだけじゃなく

他の者の魔力まで吸収できる

おまけにあの扉の怪物…

グリムまで自分の一部としちゃってんのよ…!?

ただ行ってもどうする事もできないわ

じゃあどうしろってんだよ

だからそれをどうするか考えてから行動しろっつってんのよ！

……

もしかしたら

あそこにヒントが眠ってるかもしれねぇな……

冬実！
冬実じゃねーか！

無事だったのかよー!!

はい
お陰様で…

心配したんだぜー!?

それで…あれ？

この子は…

おーう

ジュー
ジュー
ジュー
おし そんじゃ まずは腹ごしらえといこうぜ
デーン
ほら遠慮せず どんどん食えよ
……これは何だ？
ツチノコだよ お前も食った事ねぇのか？
そうじゃなくて
もぐもぐ
これはいったい何の会なのよって事じゃないの？



こっちはあんたの言ってたヒントってのを早く知りたいのよ
まあそう焦んなって
ヒントを探るには時間がかかんだよ
だからここをしばらく皆の作戦本部にする事にした
何勝手に決めてんだよ!?
安心しろ… 寝泊まりする場所は流石に俺のマンションを貸してやる
しかも東雲界に住む気かよ!?
なるほど… そういう事なら…
ちょっ…
いいんスか部長!?
俺もかまわねぇぜ
それでそのヒントとやらが見つかるならな

ああ必ず
見つかるはずだ

俺の持つ
膨大な

人間界ライブラリ
の中にな…！

どーん

……！

べ…別の部屋に
こんなに沢山
マンガがあったな
んて…すごいです

うわぁ～っ

引いてん
じゃねぇよ

……

パラッ

これが……
ヒントか？

そうだ

人間界の…
特に日本の
少年マンガには

今の状況と同じ様な
事例が数多く
記載されている…！

…事例って…

あんた本気？

キッズコミックなんて
フィクションなのよ？

ギギギ

バカにすんな

いくら俺でも
そんな事は
わかってる

ああそう…
わかってて
言ってたんだ

じゃあ
病気だわ

むっ……どれも
ほとんどが
絵なんだな

あ――!!

アタシこれ
知ってる!!

超懐かしいんス
けど!!

どっちから
読むんだ…？
これ

……

フィクション…

確かに一言で
言っちまえばそうだ

しかし人間界でフィクションとされている存在の中に

吸血鬼や幽霊…狼男は居る…！

……

私は居ないけどね…

そんな事はねぇぞ

お前と同じようなキャラはこの辺に

おいやめとけ

つまり俺が何を言いたいかというと

この中にある〝嘘〟は魔界にある〝本当〟だったりするって事だ

これはおそらく俺達の先祖が人間界で人を襲ったりなんかしてた時代のなごりだ

現実に居たそれ等は人々の記憶として残り

語り継がれるうちに今の形となった…



だから本当は魔界のものなのに

人間界のマンガで初めて知るものも多い

ゴソゴソ

たとえば…

このマンガの182Pを読んでみろ

2コマ目にある

……

：ガハハ俺はデビルリンゴ…賞味期限は無いが食べようとすると破裂するぜ

なによこれ…

これがどうし…

それがこれだ

うそつけー!!

嘘だと思うなら食ってみろよ！

誰がどうかそんな得体のしれないもん！

あんたが食いなさいよ

ビターン

おう言いやがったな どうなっても知らねぇぞ

え！ ちょっ や…待つ

どろ～
ムーン
オエー!!
オエッ
マズッ
オエ――
……退屈
……と
この様に
中身は完全に
腐ってたから
賞味期限が無い
ってのだけは
フィクションだったが
俺らの知らない
魔界のものが
あったりするんだよ
カチャ
ウム…なるほどな
有り得ない
話ではないかも
しれん…
王の言っていた魔界と
人間界の輪廻関係…
人の生前が
魔族であるなら
その時の記憶が
生まれ変わってから
バシャン
インスピレーション
という形で著者に
降りてきたのだと
したら……
…流石に考え
すぎか？
いや…でも
実はアタシ
ちょっとそれ
わかりますわ
初めて聴く人間界の
古い曲を何故か途中から
歌えたり…とか
あるんスよね…
要するに…
スタズ…
お前えが
置いてえのは
俺達が知らない
アキムの弱点
そのヒントは
人間界の
フィクションの中に
あるって事か？
ああ…
魔界じゃそのフィクションこそが現実だ
ケッ
まったく
お前らしい
バカみてえな
作戦だぜ…

で？

これの2巻どこだよ

…おいおいヘッズ…もう少しマシなシャツ無ぇのかよ

悪いな：それでも一番大きいサイズなんだけど

サイズの話じゃねえよ…これじゃ俺までネインに惚れ込んでるみてぇじゃねぇか…

おいおいいくらネインちゃんが可愛いからってやめてくれよー？

こっちの台詞だこんなシャツ作りやがって…

なるべく早く別なのを用意しといてくれ…

痛っっ…

おい肩貸すぜ

大丈夫だ…



まったく情けねぇぜ…

昔の俺だったらこんくらいの傷…

ネイン

本当に…あれで良かったのか…？

せっかく息子と会えたのによ…

……いいんだよ

今の俺があいつに何か言える事なんて無ぇよ

サイテーな親父だからな…

サイテーなままでいい

……

準備出来たわよ

ドリ

殿堂宮殿の生きてるカメラ：ほぼ全部にアクセスしといた♡

I ♥ NEYN

早かったな

ギシッ

そりゃ王のパスコードがあったんですもの

余裕だったわ

I ♥ NEYN

！

あれは…



ブラッズ…

ええ：無事みたいだけど逃げようとはしてないわ

おそらく奴に何かされたんでしょうね…

焦って救出に踏み込むのは危険だわ

……ああ

ガキ共が早まった真似してなきゃいいが…

ネイン♡

そうね…

まさかベルがいきなり皆をアキムの所に行かせる訳はないと思うけど…

ズOOO

一応確認しておくわ

ピルルルル

はいもしもし

ネル…
今どこ？

えーと東魔界…
冬実ちゃんを握ったのと
同じ場所だよ

皆そこに
居るの？

ああそうだね…
全員居るよ

皆でマンガ
読んでる

マンガ？
何でマンガなんて
見てるのよ？

知らないよ…
こっちが聞きたいね

とにかく
そんな感じで
しばらく動き無き
そうだから

そろそろ
飯行っても
いいかな

わかったわ
ごくろうさま

ピ

スタズにつけた
GPSは嘘じゃ
なかった様ね…



オオオオ

そういえばその後
報告がないけど
何してるの
かしら…

今後
邪魔されちゃ
困るわね…

ピルルルル

お

もしもし
ヴァンパイア
ハンターさん？

こ…これは
依頼主殿!!

スタズの件
なんだけど…

ご心配なく!!
着々と…！
今まさに進んで
ますんで!!

あら
本当？

はい！

ターゲットが
殿堂に逃げ込むという
アクシデントが
ありましたが

我輩達も
機転をきかせ今！
殿堂上陸に成功した
次第であります！

ちょっとリーダー
何してるアルか

早くしないと
見つかるで
ござるぞ

いやーそんな
大層な事は…

我輩の頭脳を
もってすれば
これしきの事…

ガッ

痛っ!!
何するのだロイ!
ってイタタタタ…
ごめんごめん本当…
我輩が悪かったから

……

どうやら
彼等は

しっぽは
やめて

スタズがまた
殿堂に帰ると思ってる
みたいね

ニュースで
見たわよ

なら丁度
いいわ…

今殿堂はアキムとか
いう奴が出て
大変みたいだものね

あ! はいそう
です! でも
そのおかげで…

スリル

警備が
手薄になって
侵入出来たと
いう訳ね

その通りで
あります!

混乱に乗じた
見事な作戦だわ
……それで

ターゲットを
変更するわ

え?

スタズはもう
狙わないでいいわ

いや、そんな 急に、
え? だって我輩達
もう殿堂に

だからよ



オオオオ

次のターゲットは
今殿堂で暴れている

パップラドン・
アキム……

ボトッ

ヒイ…

とりあえず
君の腕

試着して
みていい
かな?

うわあああ

もちろん…
報酬は上乗せ
するわ…

スタズの10倍でどう？

足りないなぁ…

僕の全魔力をフルで使うなら

もっと上質の部品じゃないと…

♠つづく♠

# BLOODLAD

## 第48話♠
## 漫画の世界も楽じゃないわけ

ブラッドレッド

ズズ…

……

次の巻…
まだか
ベロス巡査

ちょっと待って下さい

今いいトコなんで…
ついにあの謎の人物の正体がわかって…それが

あーっとおい！
まうなよ!?

三年前の事件の…

まうなって
まってるだろ!!

何スかもー部長が早く知りたがってるから教えてあげようかと

自分で読みたいんだよ！

……

なーウルフ…



皆いったい何してんだ？

突然押しかけてきたと思ったらマンガなんて読んでよ——

例の作戦会議ってのはどうなったんだよ…

なあ？

…んだとお？

ふざけんじゃねえぞオ……

えっ

こいつ…裏切りやがった…

俺は一の段を知ってたのか

今まで仲間のフリして騙してやがったんだ…

バンッ

ズズ…

帰ってきて現実の俺とおしゃべろ？

許せねえ…

え…？

いやウルフ

それフィクションだよ…？

ああ　あれな、ダディがよ、
空間魔術を使える者を向かわせたって言ってたんだよ

ん？

あれ？　それがベルちゃんの事だったんじゃねぇのか？

……

ああそうだよ…あれは俺の魔術だ

黙ってて悪かったが極秘だったもんでな…

ズズズ…

……

そういえば、使いがどうとかいう話なんスけど

そして奴が選んだ場所は奇しくも…

スラムのナワバリで

行われてきたリンチの観測が

ブラッドの家と駿がる柳の家へと

カーテンを出現させた場所だった…

14年前…お前が



パントマイム

奴の名前は

偶然と言えば偶然　だが

バントマイムがその場所でカーテンを出さなければ…

俺が奴に魔術を見せなければ……いやそもそも

ダディが奴を使いに向かわせなければ…？

ケイティの能力を必要とする事態じゃなければ…？

10年前…グリムとの決着がついていれば…？

ザッ

こんな事にはならなかった　と言い出したらキリがない

王の使いか…？

ここで何をしている…

……あら～～～

もしかして見られちゃった？

……

ズズ

それで魔術泥棒の正体はブラッズにやられ…

形を変えて現在のアキムって訳……？

ズズズ

14年前に私が出したカーテンも

今に繋がる分岐の一つって訳…？

むーん

確かにキリがないわ…

そーだね

ドドドド

マズイな…

目撃者は居ちゃいけないんだよね…

君に恨みはないんだけど…

死んでくれるかナ？

そんな事考えてもしょーがないよ

ネル…！

そのカーテンは結局しまえないんだしね

あんた…何でここに

またおつかいだよ…母さんのね…

スタズ還の動きを随時報告しろってさ…

……

今はたいした動きないしさ…

姉ちゃんもそのカーテンの事なんて忘れてラーメンでも食べ行こうよ

……

ま　それはイイじゃん

……

…スッキリしないのよ…

…スッキリしない…あ

こってり系がいい？

ラーメンの話じゃないわよ！

カーテンの話！

これが未だにここにあるのがスッキリしないのよ！

……

多分アキムは……

出した事すら覚えてない…

私やパパの魔術を借りパクした上こんな所で野ざらしにしくさってね…

おお…

まぁいいわ…

…大丈夫だよ…ここちゃんと封鎖してくれてるし…誰も入んないよ

立入禁止

そーゆー問題じゃない！

ガッ

ナワバリボスの許可無く侵入した者をその場で処刑

あんたの蹴ったらちょっとスッキリした

ひ…ひどい……

ズゾー
ズゾズゾ
ラーメン 650
ラーメン 950
ラーメン 730
ハン 60
ショーメ
ョーザ

で？

姉ちゃんは
これから
どうすんの？

は？

まさか皆と例の
アキムとかいうのと
戦う気じゃ
ないだろ？

まあその皆も
本当に戦う気が
あるのか怪しい
けど……

……

のん気にマンガ
なんて読んでる
しさ

魔界じゃ
フィクション
こそが現実だ

……



ぐあ——

ぬ

ゴロ
ゴロ

そーね……

あ～～～～

ちょっと
ヌタズさん

どうしたんですか
きっかから…

出てこねえん
だよ～～～～
あのマンガの～～～～
あれだよあれ～

ハッ

思い出した

ガバ

カッ
カッ

おし！
……
さっきから何してるんだスタズ

俺はお前等と違ってここにあるライブラリーは全部見てるからな
もう厳選してピックアップする作業に入ってんだよ
この資料を元に作戦会議を開く…！

しかし俺の偏った主張だけを通すわけにもいかねぇ
他の連中には別の視点から意見してもらうつもりだ…
パラ
パラ

…あれ…姉ちゃんそれ…
何よ…私がマンガ読んじゃ悪い？
いや…悪かないけど…だって今…
ええそうよ
私はアキムと戦う気なんてないし…
マンガの知識で倒せるなんて思ってない…
でもあいつは本気なのよ…

これで必ず奴を倒し
兄貴に借りを返す
ヒントが見つかるはずだ

……だから
これはただ…
どんなもんか
見てみたくなったって
だけよ

ふーん…
こっ
試験すんじゃ
ないわよ…

あいつ等に
協力するために
読んでんじゃないん
だから！

レモネードボーイ

あーそう
だろうね…



そのマンガ
恋愛ものだもん

ま
イイんじゃ
ないの？

あいつらの
作戦が
成功するかも
しれないし

それでアキムを
倒せたら姉ちゃんの
気にしてたカーテンも
消えて

スッキリするしね？

一緒に
見守ってこ…

って痛っ!!!

うっさい!!
ムカつくのよ
あんた!!

何すんだよ!?

ちょっとお客さん!!
ケンカなら外でやって
くれよ!!

ドカッ
ラーメン
ボカッ

サードアイ

あ――

読み終わっちった――

あー早く言いたいー 部長にあの結末を言いたいー

ああもう今読んでるから！ 終わったなら次のを見てろよ！

余韻に浸ってんスよー だったら黙って浸ってくれ

じ……

それ

面白ぇスか？

……

いいや

最低な奴が出て来てから見ててイライラするぜ…… 早くコイツがボコボコにされねぇかと思って読んでるだけだ

ムチュージャねぇスか……



じゃあアタシ見よーっと

……確かにコイツはクズだぜ…ウルフだろ？

……

ふ――

パタン

なるほど…これはすごい結末だな……

まさかあいつが…って聞いてるか？ ベロス巡査？

……

ちょっと待ってて下さい部長…

今いいトコなんで…

……

アハハ
可愛いですねぇ

ん？終わったのか？
はい…
何で小声なんだよお前……
スー

スタズさん

……そっか…
こいつも色々あってよっぽど疲れてたんだな…ガキなりに
悪いな…おもりさせちまって
つっ
いっいえ…私は好きでやってる事ですから
んじゃ俺も休憩すっかなー
ふあ～
お前も遠慮せず休めよ
は…はい

ちょこん
……
おい何だそのかろうじて座ってみましたみたいなやつは…
いえ…別に…
おらもっとこっち来て横になれよ
え…ちょっ
ドサッ
わっ

ビュン
そんで
その後
宮殿の様子は
どうだ？

……
スカー
ドキッ
…あの…？
スタス
さん…？
も…
もう寝てる…
……

ほいこれ
新しい服と
ネインちゃんから
差し入れの
サンドウィッチ

お う悪いな

I ♥ NEYN

ネイン♡

状況は…

ブラッズは
変わらずだ

アキムに何かを
作らされている

何かって…
何だ？ あれ

さぁな…
ロクなもん
じゃねぇのは
確かだろうが…

今はそれよりも…

これを見ろ…

パッ

!



おいウソだろ…

まさか
コイツ等は…

ああ…ニュースを見て
アキムに挑んでった
連中だ…

もちろん
もう死んでる
がな…

死肉を操る
亡霊は底なしの
魔力を手に入れ

次々と自分の
兵隊を量産
しだした様だぜ…

ドクン

ドクン

ドクッ

パン

ドクン

よろしくね♡

ドクン…

着々と……

ドクン

僕が君の新しいパパだよ

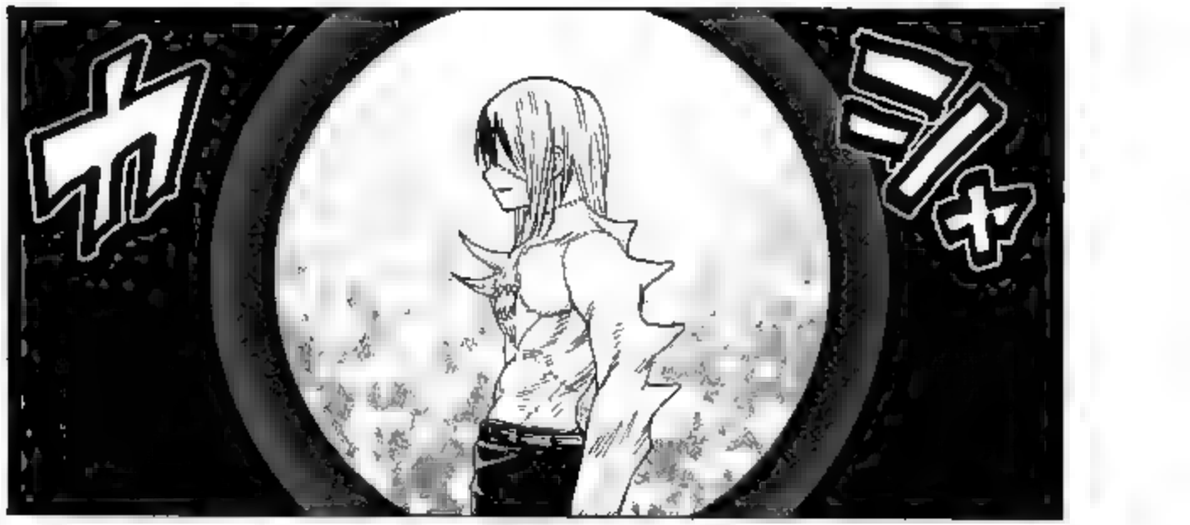
ドクン

ハロー☆

オオオ

奴はガレキの中で

屍達の王になろうとしている



アイヤー
やぱり私達(わたしたち)の
リーダーバカダヨ

あんなの
勝(か)てるワケ
ナイネ
ズ
全員玉砕
なんとか逃げてきました
インタビュー
ズズ

うん……
でもこうなったら
もう殺(や)るしか
道(みち)はないよね…

間
ハイドラベル
マナ
26900
organ

♠つづく♠

第49話
給血☆ドッキドキエモーション

ナイトワールド

BLOOD★LAD

第49話♠
給血☆ドッキドキ
エモーション

…起きて
たんですか

吸いたくなったら
言えっつったろ

何か……
怖くて…

私…このまま
どんどん欲しく
なっていったら

いつか
スタズさんの
首元に…その…

齧りつい
ちゃいそうで…

……

何だよ
そういう事なら
……

な……ス…
スタズさん
……？

ほれ

だ……
駄目ですよ…

え？

いいから
来いよ

ガッ

くぅ〜〜〜

じれっ

ったい！

ほら…

好きな人の前で素直に
なれなくて屋上で
空見ちゃってる感じとか？

はぁ!?
好きな人なんて
居ねーわよ！

ほらほら
そーゆートコ

今の姉ちゃんに
ソックリで

カチン

どこがよ…

何よあんた
文句言いながら
私より見てん
じゃないのよ…

いやーこの主人公の
女の子がほっとけ
なくてさー

何ていうか



どこでも
首つっこんで
いける能力を
持ってるのに

遠くでそれを
ただ眺めてる
だけ

それじゃあ何も
伝わらないよ？

ぐっ…

……

でもまあ…

そこが姉ちゃんの
可愛いトコなん
だけど…

ここここ！

ね？

カアアア

何よバカ！
避けるんじゃ
ないわよ！

わかりやすい
なぁ姉ちゃんは

アハハ

トッ

おっと

ズルッ

もっと
そういうとこを
相手に…

……

はぐ

はぐ

はむ

どうだわかったか

お前ぇの噛む力
なんかじゃ俺の首は
傷一つつかねんだよ

だから余計な気
つかってんじゃねぇ

や…やっぱり
ぜ…駄目ですスタズさん…これ



……

!!

何よ…

私だって
その気になれば…

ゴッ

私…もう我慢できません…

スタズさんの…欲しいんです…

いじわるしないで早くください…

0

そうだな

でもここじゃアレだ

ベッドの方行こうぜ

……



ちっ違うんです！

これはその…

？

何だよ違ぇのかよ

ああ！待ってください ベルさ…

スウ…

キャ

ビターン

…うう

……何してんだお前……

ドックンドックン

落ちつけ私…

今のは…そう例のやつよ…

フユミンが消えそうな時のやつよ…そう…そうそう…

欲しいってのは血の事よ…そうそう…そう

でも何で…じゃあ…

今抱き合ってた訳…？

何かフユミンの方から抱きついてなかった…？

ズルっ

え？　もうそんな感じなの…？

違うんです！

これは…その…！



……

パッ

ドキ

ドキ

も…もっかい…

一瞬だけ…見てみよう…かな

何してんだ大福

……

ドキーン

ギャ――ッ

ガチャーン

何だ？

チュポン

ベルさん…？

でーん

……大丈夫か？

……

大丈夫に見える…？

お い誰か居んのかー？

ヤバッ

引っぱって！ウルフ

あ？

早く！引力！

…んな事言ったって…どこ引っぱりゃいいんだよ

どこでもいいわよ！

足でもベルトでも…

ってちょ！バカ！そこは…

？

ダメ！

……

何してんだよお前等…

ペロ～ン

や…その…

これは…

いや！ 待って！ やめて！「見なかった事にしよう」はやめて――!!

ワルッ

誤解だから！ これはそんなんじゃないから――!!

……

姉ちゃん……

事故なのよ――!!

なんか…ごめん……



ボパッ

焚きつけておいてなんだけど、あんたも何とか言いなさいよ！

いや…

かける言葉が見つからないよ…

ったく

人ん家で何やってんだあいつ等…

ほれ

ジュースやるよ

あ…ありがとうございます…

フゥー…

そ…それであの…ベルさんは…

ん？ ああ…

何かウルフと仲良くやってたぜ

え？

気にすんなよ

ドサッ

どーせまた俺をからかうつもりだったんだろ

それよりお前…

またそんな端っこの方行って

い…いいじゃないですか…

ちょこん

……

……何だよ

私はここが好きなんです…

ちゃんと…スタズさんの目の届くところに居ますし



ふ…不必要にくっついてる事もないじゃないですか……

ほ…ほら

私達…別に…恋人同士じゃないですし…

誤解…

されちゃいますよ…

ズーーーン

ズーン
……
ズーン

…悪かったよ
ベル…お前が
何しようとしてた
かは知らねぇが

スタズは別に
気にしてねぇと
思うぞ

う…

どわっ

だからそんな
ヘコむ事
ねぇよ

わかってる
わよ…

そう・あいつは
私の事なんて
気にしてない!!

もうほっといて

……

どうしていいか
わかんないのよ
……!!

だから
ヘコんでる
のよ……!!

……そうかよ

でもこれだけは
言わせてくれ

……!

俺はお前を
もう仲間だと
思ってるぜ

多分スタズや
他の奴等も
同じはずだ

こっから先：
アキムとか王とか
魔界がのっぴき
ならねぇ状況に
なるだろうが…

そんな中…
俺達には
お前の力が必要だ

だからお前も
俺達が必要な時は
言えよ

今日は邪魔
しちまった
けどな

……

勝手な事
言わないでよ…

協力なんて
してやるもんか…

私は
今その仲間に
やられちゃってん
だから…

魔界がどうなろうと
知ったこっちゃ
ないわ…

オオオ

オオオ

ピッ

25760

ピッ

ピーッ

……

できたかい？

ああ…

僕が頼んでた
オモチャ…

まだ計測
出来る値に
限界はあるが…

ピッ

フーン：
よくわかんない
けど…

このサイズで
実現可能な
パフォーマンスは
引き出せたと
言えよう

25760

ヴィーン

それじゃあ
早速試して
みようか…

とりあえず
今の僕で…

どうだい？

デザイン的にはけっこう気に入ってるんだけど

これはまた…

随分とイメチェンしたものだな…

とりあえず部位ではなく全体の数値を診よう

これを心臓のある位置につけてくれ

ピ

……

ピピピ

これでいいかい？

ああ…では測ってみよう

ピ

……ちなみに

魔界で暮らす魔族の平均数値は

だいたい2000～3000オルガンだ

オルガン？

魔族の器

魔力を保有する臓器の値を示す呼び名だ…

なるほど…良いね

それで君は何オルガン？

……私は25760オルガンだ……

じゃあ僕は？

ピ――ッ

何オルガンだい？



1930 20オルガン……

もはや笑うしかない数値だ…

途方のない…

何だ…そんなもんか…

底なしのバケモノ…

フッ

まあいいや…これからこの測定器を使って

もっと僕の力を引き出せる優秀な部位を探すとしよう…

ガラッ

君にも手伝ってもらうよ……

部位ごとにリストにして欲しいんだ

それで良い部位は良い部位と組み合わせ…ランク分けしよう

なんせ量が多いもんでね…

なるほど…
良いアイデア
だ

冗談じゃない

まだ欲する
というのか

しかし
そういう
事なら

私より
適任者が居る

君もよく知る
人物だ…

？

ボソ…
ボソ

ですから――

各区域の
ナワバリボスを
向かわせるべきだと
私は

徹底討論
アキム討伐!!

しかし
それでは
ボス不在の
ナワバリは
どうなるんです

もっと現実的に
考えるべきで
しょう

そんな事を
言っているから
あなたは!!

フッ

B.T.R

無駄な議論
っていうのは
この事だねフランケン

ああまったく
したくだ…

どのチャンネルも
僕のニュースで
もちきりだね☆

ガッ

BTR PRISON

やっ

…悪いな フランケン

また力を貸してくれないか？

……

お前達…

迎えに来たよ



今度は私のためではなく…

僕のために

ね

……

やれやれ

オオオ

俺はいったいいつ家に帰れるんだ？

……

喫茶

サードアイ

部長ちょっとこれ見て下さい
……何だよまたネタバレか？
違ぇっスよヒント見つけたんス
何……！
どこだ!?
ほらここっス
もしこれがこの魔界に存在してるとすれば…
アキムとかマジヨユーくねぇスか？

吸
ブラッド・T・リズ
9700
organ

♠つづく♠

ズバリ言おう！
アキムを倒すには巨大ロボ!!
もうこれしか無い！
第50話♠
出発!刺客!北魔界!

そんなの魔界にあるわけねえだろ
わかんねーだろ！古代兵器的な級いでどっかに埋まってるかもしんねーし!!
はぁ…
…ったく
これだから世間知らずの坊ちゃんはよ…
あん？

沢山ヒント見つかったっつうから集まってみれば

現実離れした内容のオンパレードじゃねぇか

何だとこの野郎

魔界の皆から少しだけ元気を分けてもらって…とかよ

どうやってんだよそれ

異体的じゃねぇのばっかなんだよテメェは

ほ――そうかよ

じゃあお前はさぞかし具体的で建設的なアイデアをお持ちになってらっしゃるんだろうなコラ

当たりめぇだ

俺は散々マンガを読み漁ってやっぱこれっきゃねぇって確信したぜ

あぁ

ズバリ

〝修行〟だ

あぁ～

確かにそれは具体的

建設的っスね

ぐっ…

マンガで強大な相手と戦う時…

決まってする事…それが修行だ

パラッ

あ…そのマンガ

？おう

知ってるのか

はい！私の友達がすごい好きでライバルのキャラがカッコイイですよね

けっこう自分勝手なんですよね

あーわかるぜこの主人公は何か中途半端っつうかなぁ

そうそう…必死になんのはいんだけど周りが見えてねぇんだよ

くくくくくく

おいスタズ
何のつもりだ

別に

そんな事より
そっちの二人は
何かねぇのか？

あ…ああ

もちろん
見つけたぜ

これなら
間違いねーって
やつをな

何っ

ガタッ

あ…
ああいや

本当か!?

そこまで
期待は
しないでくれ

正直
僕はどうかと
思うんだが…

ペラ

部長は
黙ってて下さい

キャ

ワンッ

なっ何ですか
スタズさん…これ

席替えだ

そこでリズの
面倒をみてろ

……

ドドド

!?

魔楽器
デッド・リゾート

このベースの
奏でる音…
つまり振動は

魔力を分解する
力がある…



実体のない
存在そのものが
魔力のアキムに
コイツをぶちかませれば

その行動のすべてを
完全に無力化
する事ができる

手を動かす事は
おろか 瞬きすら
できなくなった奴の
無防備になった
動力をツブせば
それでジ・エンド

完璧だろ？

……

ああ

ただ…
そんなものが
本当に…

この魔界に
あったらの話
だけどな

何なんスか部長さっきから！

ガタッ

このヒント探しでそれ言ってたらおしまいじゃねぇスか！

……

私にはわかるんスよビビッときたんス

これは魔界にあるって!!

……そうだぜイガグリ

あるかもしれないを信じて進まなきゃ何も始まらねぇ

巨大ロボだっているかもしれねえしそのベースだってあるかもしれねえだろ

いや だから巨大ロボはいねーよ…

魔界的な要素〝ゼロ〟じゃねえが…

わかっているさ……僕だってそれを承知の上でマンガを見ていた

だからこそ冷静にズバリ言わせてもらえば

そのベースはすごすぎる



うっ

確かに…こんなもんが本当に魔界にあったら大ニュースかもな

そうだろう……しかも自然物ならまだしも

ベースは明らかに誰かの手によって作られたものだ

うっ…

だいたいベースである必要性もわからんしだな

何言ってんスか!!

ベースなのが鬼アツいんじゃねーすか！

……それはお前がバンドでベース担当だからだろう…

ッッッ

必ず見つけて
やっから覚えとけよ
テメー等！

ベロス!?

……

……

おい…

いや…その…

すぐ戻る

ワイッ

待ってくれベロス巡査!!

ヨランヨラン

あらあら



お前達 本当に
協調性ってのが
無ぇよな～～～

何で俺の目を
見て言うんだよ

お前が
アッチギリで
無ぇからだよ
スタズ

ふざけんな

もっと協調性
無ぇ奴は他に
居るだろ

なぁウルフ

あ？

ベルは
どうした

知らねぇよ
俺に聞くんじゃ
ねぇ

何だよ 昨日二人で
楽しそうに遊んでた
じゃねぇかよ

遊んでねぇよ
あれはだな…

フワ

フワ

スタズ!!

兄様が！

！

カッ
カッ
カッ

オオオオオ

……

ブラッズ



おいブラッズ

…ああ

すまない…
終わったのか？

ああ提出する
今日の分はな…

よし……

この調子で
表面上の仕事は
こなしていこう

カチカチ

多すぎず少なすぎず
のノルマで
可能なかぎり
時間を稼ぐ……

カチャ

そして我々の
真の仕事は

あの怪物のデータを集め

じっくりとその首を獲るプランを練る事にある…

ゴゴゴ

ゴゴゴ

が…しかし

なかなかお似合いの格好に仕上がったね

オオオ

グリムの魔力を分かつ僕の可愛い分身達…

ケリー

バーガンディ

ケリーの推定魔力値(すいていまりょく)57000オルガン

バーガンディ54000オルガン

……何なんだコイツ等は…

ブラッズ…お前が造ったのか…？

まさか

……

そうか…！

人造魔人はもう我々が造る必要なんてないのさ……

奴は無限の動力を手に入れた

自分の手や足を動かす様に

屍共を操る事が可能なら……

停止した心臓を再び動かし 脳に魔素を送る事も可能という訳か…

そう…

これは蘇生だ



高ランクの部位だけを使い新たな魔族として生まれ変わらせる

魔力の共同体という支配の下に

パパと少し遊ぼっか

もたもたしている時間はない

ドド

ビューティフルだ

いいね☆

でもまだまだ

足りないね

チェッ

パシ

これから二人には
魔界に行って
各地区に居る
ナワバリボスって
やつを見つけて
もらうんだ

ルールは
簡単だ…

ナワバリ
ヤブリって
ゲームなんだけど

ナワバリ…？
何それ

面白そう

腕と頭を獲ったから

僕の勝ち☆

じゃあもっと
違う遊びを
しようか

え――

大丈夫…今度のは
きっと楽しい
はずだよ

この遊び
つまんない

勝てないから

ダヨネ

アハハ

ゴゴゴ

それで…
何だっけケリー

そいつ等を
倒して持ち帰り

より上質な
部位だった方が
勝ちだ バーガンディ

よーするに
強そうな奴を
倒した方が勝ちって
事でしょ？

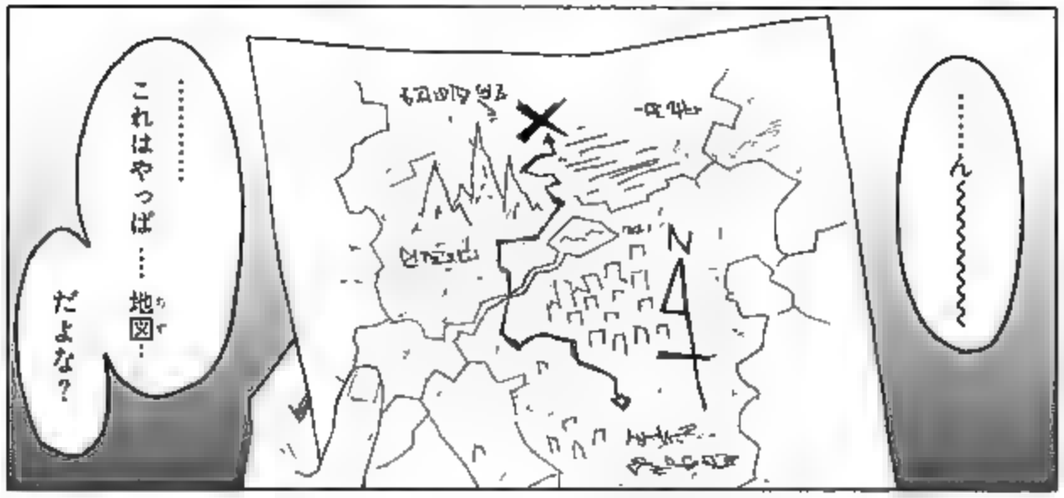
ゲーム
スタート☆

それじゃ

ヒラヒラ
面白そ～～～

そーいう事
ダヨネ

シュタ…
ビオオン


……んくくくくくく
これはやっぱ……地図…
だよな？
N
4

お前の兄貴は
これで何を伝えたかったんだ？
わからん…
とりあえず
絵が下下手
な事だけは
わかったが
私はそこに
行くぞ！
スタズ！
いや 行くってったって
どこだよこれ…

当のプチ兄貴は
これ書いたっきり
うんともすんとも
だしよ…
……
まぁでも
どっちにしろ
行くしかねぇか…
そうだな
うだうだしてても
ラチあかねーしな
もしかしたら
兄様は今そこに
居るのかもしれない！
ああ…

もしくはここに
巨大ロボが…
それは
無えよ！
……冗談
だよ
巨大ロボは
無いとしても
この中の何かは道中
見つかるかも
しんねーしな
目的はあるに
こした事はねぇ
今は動き出す
事が大切だ
……

本当にいいの？姉ちゃん

あいつ等どっか行くっぽいよ

ゴロン

あっそ

いつまで不貞寝してるんだよ…

ほっといて

ほっとかれたくないからここに居るくせに…

あーもううるさいうるさい！

ツンツン

ほらいつもみたいにジャジャーンって出て行ってあげなよ

そしたらもう大丈夫だって

大丈夫じゃないわよ！

私は便利に使われんのが一番嫌いなの！

そんなにあいつ等を助けてやりたいならあんたが行けば!?



おし

じゃあとりあえずこの地図を元に北の方行ってみっか

各自準備したらまたここに集合な

おう

サードアイ

ポリス組にも戻って来たら伝えといてくれ

あいよ

あっあの…

ベルさんは…

あ…そうだ何してんだあいつ……

お前…あのベルのベルまだ持ってっか？

ザ…

は…はい鳴らしてみてもいいですか

その必要はないよ

!

キャッ

お前は…

オ…

オーバーだなぁ…
流石にもう
掴ったりはしないよ

何しに来やがった

あの…
ちょ…

えっと…

今ちょっと姉ちゃんが
来られないから
僕が代わりに
来てみたんだけど…

……

まずかった
かな…？

と…とりあえず
その冬実ちゃん
もう放してあげて
もらえる…？

フフ…

どうしたの
ネインちゃん

ネルからの
メールよ

まったくあの子達ったら
魔界のピンチなんて
全員この次って感じね

ハッ 若い内は
みんなそーだろ

重っ苦し～事
考えんのは
大人の仕事だ

あなたは
何も考えて
ないけどね

おいおい
そりゃねーぜ
…
俺だって
ちゃんと
考えてる

あら本当？

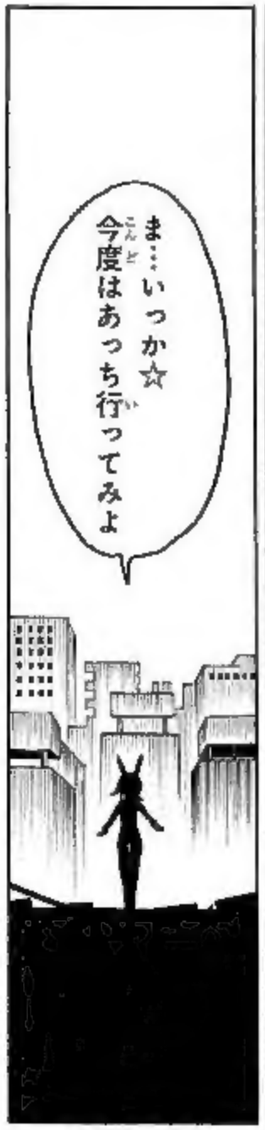
オホン

夫婦団欒の
とこ邪魔して
悪いな

！

動きがあった

オオオ…
最初の被害にあったのは北魔界だ


ま…いっか☆
今度はあっち行ってみよ

あっれー……
ちょっと遊んでたら
皆 居なくなっちゃった
ズ
ボスってどれだったんだろ……？
ズ

♠つづく♠

幽
ヤナギフユミ
50
organ

# 魔界に生きる

ここは
魔界の僻地
誰のナワバリ
でもない
そんな場所
そこに彼は
居ます
ガー
ぐガー
え？
誰だって？
彼の名前は
パティ
ん？
あれ
今何時…
この僻地で
暮らす
少年です
ってやっべ
もうこんな
時間…
間に合わない
……
ダッ
何やらこんな
のどかな場所で
慌てて走り
だした様ですが
うおー
バッ
いったい何があると
いうのでしょう

キ

ヨロッ

ああ…
始まっちゃった

この服…
けっこう気に
入ってるのに…

バキャ

ううう…
ごめ…ん
シ…シュオオ

ズズズ

なんと…
時間がくると
少年の小さな体は

姿を変えて
しまうのでした

オオオオオ

それはそれは
巨大な怪物へと

バサ バサ

ズズゥゥン

飯抜き
じゃ

パティを静めた
このおじいさんの
話は

つづく

また次の機会に
する事に
しましょう

END

ズシンズシン

また時間が
くるまでの間
ただひたすら
暴れまわるのです

こうなってしまった彼を
止められる者は
居ません

彼にはもう
自分をコントロール
する事は出来ません

ミシュタッ

たった一人を
除いて

このバカタレが

遅刻とは
たるんで
おる

ドゴ

BOOK☆WALKER

角川コミックス・エース
ブラッドラッド(10)

著者:小玉有起

©Yuuki KODAMA 2013

2013年12月28日　発行

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
角川コミックス・エース『ブラッドラッド(10)』
2013年12月28日初版発行

発行者　山下直久
発行所　株式会社KADOKAWA
http://www.kadokawa.co.jp/

〒102-8177　東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-8745(営業)
編集　角川書店
〒102-8078　東京都千代田区富士見1-8-19
03-3238-8541(編集部)

装幀・デザイン:佐々木基

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず
本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に
予告なく変更される場合があります。
ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。